

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1473701488
法人名	スマイルケア 有限会社
事業所名	グループホーム スマイル青葉
訪問調査日	平成19年12月20日
評価確定日	平成20年1月31日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 19年 12月 27日

【評価実施概要】

事業所番号	第1473701488号
法人名	スマイルケア 有限会社
事業所名	グループホーム スマイル青葉
所在地	神奈川県横浜市青葉区恩田町1152 (電話) 045-981-0084

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成19年12月20日	評価確定日	平成20年1月31日

【情報提供票より】(平成 19年 11月 30日事務所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	20人	常勤 10人	非常勤 10人	常勤換算 17.5人

(2) 建物概要

建物構造	(木)造り
	2 階建ての (1)階 ~ (2)階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 300,000 円	有りの場合 償却の有無	入居時	
食材料費	朝食	500 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円

(4) 利用者の概要 (12月20日 現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	1 名	要介護2	7 名		
要介護3	7 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 75 歳	最低	47 歳	最高	92 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	青葉台病院、地挽歯科医院、介護老人保健施設カメリア
---------	---------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

東急田園都市線・JR線長津田駅から徒歩15分程ののどかな田園に囲まれており、利用者および職員の笑顔が絶えないグループホームです。また、四季折々の花が何時も満開で綺麗な住環境の楽しいホームです。一泊での温泉旅行等の企画、実施があり、利用者相互間や、利用者とスタッフ、職員とのコミュニケーションが上手く取れる工夫がなされています。利用者各人の自主性を最も大切にしている一方で、職員自からの自主的な能力向上のための研修時間を有給扱いにするなどして、職員の意欲向上を図っています。勤務体制のシフトからホーム長を外しており、非常時の交代要員として待機している為スタッフが安心して勤務できるよう配慮されており、職員の定着率の高さを誇っている事は大いに評価できます。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価は今回が初めてです。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>ホーム長の理念の下、職員6名を中心にとりまとめたのちに全職員に回覧し最終のとりまとめをホーム長が行いました。全員が自己評価の意義を理解しています。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議を10月に開催し、推進会議への参加者を増やし多くの意見を聞いてサービスの質の向上に活かしています。グループホーム連絡会交換研修をプラチナヴィラ市ヶ尾・夢優と企画実施しました。次の運営推進会議は来年2月に開催が決定しています。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>設立後間もないこともあって苦情は未だ出ていませんが、家族の要望、不安の解消に努めています。例えば家族から訪問したときに職員の顔と名前が一致しないことがあるなどの意見に対しては、職員の方から自己紹介と挨拶を徹底するように努めるなどして解決しています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地元自治会に加入しており、恩田町自治会とも連携して活動しています。近隣の畑から野菜を、近所の店からは食材の購入をしており、米はJA田奈から購入しています。散歩の途中で挨拶を交わし果物やお花を頂いたりして地域に溶け込んでいます。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所の理念「今を大切に、今できることに全力を、今味わえる喜びを胸一杯に、悔いを残すことがないように介護を、そして思い出づくりを」を下に「接遇」「回想法」を取り入れたサービスを提供している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有を常に考えて、問題が見出されたその都度1階、2階それぞれ別々にミーティングを開催しております。時によっては合同カンファレンスを実施して理念の実現に努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入しており、さらに広域の恩田町の自治会と連携を図っている。近隣の畑から毎朝野菜を購入したり、近所の商店から食材を購入したりしている。米はJA田奈から調達しており、地域の祭りにも参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者のリーダーシップの下に職員6名を中心に取組みとめた上で、全職員へ回覧して周知を図っている。外部評価は今回初めてであるが、来年度以降も毎年継続してサービスの質の向上の指針としたい意向を持っている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を今年の10月に開催して、利用者やサービスの実情を報告し、さらに外部評価に取り組んでいることなどを説明して今後の開催方法などを話し合い意見交換をしている。		運営推進会議を定期的で開催する体制を構築し、そしてその会議での検討内容が今後のサービスの質の向上につながられる仕組みを構築されることが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が認知症介護実践研修指導者の資格を有していることから講演などに関連して頻繁に行政と連絡を取りあっている。また、生活保護を利用している利用者が数名いることから市の関連職員と緊密な連絡を取りあいサービスの向上に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	利用者の家族がクリスマスなどの各種行事で面会に訪れるその都度話し合いをすることにしている。また、月に1回発行している「スマイルだより」にて現状などを報告している。日常の金銭出納に関してはホームで一時立て替えて後日請求清算する体制をとっている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会において、意見・苦情などを話せる場を設けてあり、個々の問題については家族と管理者、職員といつでも話し合う体制が整っている。現状は家族と良好な関係が保たれており苦情もありませんが、もし苦情がある場合は申し出しやすいよう配慮している。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者に影響をおよぼさないような配慮をした上で、管理者が各職員の希望を汲み取るために職員との個人面談を実施している。職員が得意分野で力を発揮し、能力向上できるように資格手当や、異動、給付手当などの工夫をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県・市主催の研修会などへの自主的な参加を促進するような勤務体制を組んでいる。また、その研修内容を全職員が共有できるような体制が整っている。勤務時間内の研修は有給の取り扱いにしている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者の認知症介護実践監修指導者をはじめ各種資格を活かした人脈から他のグループホーム連絡会との交換実習研修を実施した。また、他のグループホームの研修生も受け入れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望者の今までの生活していた場所、空間を管理者が実際に訪れて周りの人の話を聴いたり、接遇・回想法などを用いその人にあうようにじっくりと時間をかけている。一方で他の利用者に不快感を与えないような共同生活をする上での最低限のマナーを身につけて頂くようにしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は理念を常に頭において臨機応変に柔軟に対応できるように心がけている。また利用者から過去の出来事、生活の知恵など色々と教わるなどしてお互いに助け合っている。利用者が自分でできることはスタッフが気長に見守っている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者一人ひとりの話に耳を傾け、思いや意向を汲み取っている。認知症の進行緩和のために取り入れた回想法を実践することにより、これまでの生活暦を引き出す効果をあげており、思いや意向の把握に役立てている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>介護計画は、その人らしさを重視して本人、家族との話し合いはもちろん、職員の気づきも取り入れ、十分なカンファレンスを行い作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>定期的な見直しの他、入院など大きな変化が生じた場合はその都度見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院の送迎、健康診断時の付き添い介助のほか、ドライブや地元の資料館見学などの外出支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所のかかりつけ医の往診、歯科医の口腔ケア往診、理学療法士の訪問など、利用者の健康管理に心をくんでいる。また、入居前からのかかりつけ医の受診も柔軟に対応している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期のあり方について契約書を交わし、家族の理解を得ている。事業所としてターミナルケアの必要性、重要性を認識し、看取りの研修やカンファレンスに積極的に取り組んでいる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	事業所の理念は「利用者様の尊厳を第一に考え、礼儀正しい姿勢で接すること…」とうたっている。職員は常にそのことを考え、確認しながら利用者に接している。個人情報に関する資料は事務室の鍵のかかるロッカーに保管、管理している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	訪問時、散歩に出かける方、入浴する方、テレビ鑑賞する方、居室でくつろぐ方など思い思いに過ごされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地元で収穫される旬の食材を生かし、冬は鍋料理、お正月はお雑煮、おせち料理等季節感のある料理を心がけている。食事作りは職員が行っているが、利用者も一人ひとりの力に応じて配膳、片付けなどを行っている。職員は利用者と同じテーブルを囲み、会話を楽しみながらさりげない支援をしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	単に入浴時間とするのではなく「スマイル温泉」と名付け、暖簾、洗面台に花を飾る、温泉入浴剤を使用するなど雰囲気作りをしている。毎日自由に入れるが基本的には自己決定を優先した入浴支援が行われている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花の手入れ、ハーモニカ、歌、トランプ等一人ひとりの好みや趣味に応じた楽しみが提供できるよう配慮している。外食や買い物等の楽しみごとや気晴らしにも柔軟に対応している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩は毎日午前午後を問わず利用者一人ひとりの希望に沿って行われている。煙草やちょっとした日用品の買い物にも個人個人で対応している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は人の出入りがわかるようにセンサーを設置しているが鍵はかけていない。1階リビングの窓も鍵をかけず利用者は思い思いにウッドデッキに出入りしている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域の警察を訪問し、緊急時の協力依頼をした。水、米、缶詰など非常時の備蓄をしている。		消防署の指導、協力の下での防災訓練、事業所独自の避難訓練等年間計画を立て定期的に行われることが望まれます。建物の構造上難しい問題もありますが、災害時の2階の安全な避難経路をきちんと確保されることが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	家庭の食事ということを基本に献立作りをしている。現在は3ヶ月に一度くらいの割合で管理栄養士のアドバイスを受けている。水分摂取にも気を配り、必要量摂取できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは明るい日差しが降り注ぎ、冬場でも日中は暖房が要らないほど暖かく居心地が良い。建物のあちこちに鉢植えや花が飾られ、クリスマスの飾りで季節感も演出されている。下駄箱にはさりげなく目隠しがされ生活感が出過ぎないように配慮している。気になるニオイに対しても香をたくなどして心遣いをしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や仏壇、カーテンなどそれぞれ馴染みの物品が持ち込まれている。家族の写真や人形が居室に彩りを与えている。		

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム スマイル青葉
(ユニット名)	2F
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市恩田町1152
記入者名 (管理者)	鈴木 和恵
記入日	平成 19 年 11 月 30 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者様の尊厳を第一に考え、礼儀正しい姿勢で接すること、今を大切に...今出来ることに全力を...今味わえる喜びを胸一杯に...そして思い出づくりを...充実した生活を送っていただけるよう支援します。」という理念を掲げ、尊厳と接遇と自立支援を最重要視し、スキルアップにつとめながらケアにあたっている。	入居者様の、尊厳を守ることに努め、自立支援するよういつの時も心がけていきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有を考えながら、問題が見出されたその都度、1F・2Fそれぞれミーティング、または合同カンファレンスを実施し、理念の実現に向けて努力している。	時間の調整に努め、カンファレンスの回数を増やしたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会が設置されているので、家族会の中で、当ホームでの理念を説明し、賛同を得ている。また、地域においては平成19年10月28日運営推進会議実施し、理念の説明をし、賛同を得ている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の畑より毎朝、野菜を購入している。隣の畑のさつま芋のひと棟を買い、さつま芋掘りを実施している。散歩の都度、畑にいる近隣の方と言葉を交わしたり、柿やお花を頂いたりしている。地元の田奈農協から地元のお米を購入している食材も地域のお店で調達している。地域のお祭りなどにも参加している。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	当ホームは恩田町にあるが、恩田町は広く、当ホームの一番身近な場所にある堀之内自治会の会員となり、地域活動に参加しており、恩田町自治会とも連携を取りながら、協力してもらっている。	恩田町の自治会との連携を考慮する必要がある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	平成18年度 横浜市認知症高齢者グループホーム 認知症予防・介護事業の一環として、地域の方を対象とした知症の現場でのケア「もっと理解しよう認知症...そして地域で支えたい認知症の方がた」をテーマとして、スマイル青葉管理者鈴木和恵が青葉区役所にて講演を行った。		地域活動の一環として、講演会などの開催を企画し、実施していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回、第一回目の外部評価に向けて取り組んでいる。		今後も年に1回継続して行きたい。外部評価により反省点を確認でき、これからのケアのしつもの向上の指針となるようにしたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年10月28日運営推進会議を実施し、委員の方、オブザーバーの方々へ、現状を報告し、意見交換を行う。		委員会への参加者を増やし、より多くの意見交換ができ地域活動が活発に出来、サービスの向上に活かしたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が認知症介護実践研修指導者であることから、活発に行政との話し合いをしている。また、生活保護の利用者が6名いることから、生活保護課の職員と密な連携をもって、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者をはじめ、職員で、後見人制度等の研修に参加し、知識を深めるよう努力している。		今後も研修等で知識を深めていきたい。それにより必要が生じた場合に適切に対応できるように備えておきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	平成19年7月7日(土)に行われた、第4回「日本高齢者虐待防止学会横浜大会」に参加をし、高齢者虐待の防止、発見後の対応について地域包括センター・行政・施設等、それぞれの立場から事例をもとにした検討を聴き、当ホームでもカンファレンス等で虐待防止について認識を深めている。現在当ホームでは虐待はみられていない。		尊厳・接遇をもって入居者様に接することにより虐待はさげられるとおもっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の見直しが必要になった場合、家族会において、説明・検討をし、より良い形で解決するよう心がけている。解約に関しては現在まで、解約者は1名であり、その1名も病院に入院という形で解約にいたっている。どのような時も十分な話に応じる準備ができています。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	当ホームにおいて、職員や管理者が十分に利用者様の話を聴くようにしており、その内容をミーティング・カンファレンスにおいて検討し、利用者様の満足に近づけるようなケアができるよう心がけている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ケアプランの変更の際はもちろんの事、個人的な事はご家族に直接、来訪された都度、話し合いをしている。また、月に1回発行する「スマイルだより」において現状等報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会において、意見・苦情等を話せる場を設けている。個々の問題については家族と管理者・職員がいつでも話し合うことができるようにして、解決に向けている。		ご家族様とは、良い関係が保たれていると思われ苦情も聞こえてこないが、更に苦情が申し出られるような雰囲気作りにつとめたい。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや個別面談を実施し、意見を取り入れている。		問題があるといつでも相談できる運営者・管理者であるように努めたい。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者が勤務表作成を担当し、予定や状況に合わせて職員確保や変更など行っている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者が個別面談を実施し、個別に話し合いをした上で、状況判断をし考慮した上で移動などを行っている。個々の職員の得意とする分野での活躍を認めるようにし、自信を持って活躍できるようにして、職員が長期間勤務できるようにしている。このことにより、なじみの関係が継続できている。		無理のないシフトで健康管理に努めて、変更の少ないように努めてもらい、やむを得ない場合は十分な配慮で解決している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修への積極的な参加をサポートし、全体で一つ一つの内容を理解・共有できるようにしている。また、研修で学んだことを活かしていくよう、視野を広げていくよう、指導されている。		自主的に研修参加が出来るように、自己研鑽の必要性を認識してもらえるように育成していきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者の人脈・交流の中で、他グループホームとの交換研修を独自で実施している。今年も、他グループホームとの個人的な研修を受け入れた。また、グループホーム連絡会の交換研修も終了した。		管理者がケアマネジャーとして兼務しており、その関係で交流範囲が広い。ホームのサービス向上のためにもさらに職員共々地域の同業者との交流を持つように努めたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	就労時間・休日等、運営の中で、無理がないよう、職務に従事してもらい、なお個々にストレス・問題がある場合は話し合いのうえ解決するようにしている。また、ストレスマネジメントの研修に参加している。		運営者・管理者は、職員とのコミュニケーションを大切にしていきたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	施設内研修等で、職員のスキルアップの実績を認めることができるよう、務めており、また、施設外研修に参加してもらってケアの質の向上を目指してもらうよう働きかけている。		認知症に関する知識と介護技術のスキルアップのために認知症介護実践者研修への参加を予定している。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者が、ご本人やご家族、その他から情報を収集し、ご本人が置かれている状況や現在抱えている問題・悩み等をくみ取った上で、混乱や不安を招かぬ様、努力している。実際に日々関わる職員がご本人の話される言葉を傾聴し、ご本人の求めている事を理解した上でニーズを見出し、管理者に伝えている。		2Fは、個人行動を好まれる方が多いので、これをわがままとだけ受け止めるだけではなく、その人のための支援を見出すことができるようにつとめたい。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者が、ご家族と連絡を密にとり、その時、抱えている問題や悩み理解し把握している。課題をご家族と共有し解決に向けてよりよい方法を考えている。また、入居前のケアマネジャーの意見を参考にすることもある。		関係ケアマネジャーとの連携をもっておくことがたいせつであるとおもう。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際は管理者が状況判断をし、ご本人にとって必要である支援を考慮した上で、職員と対応を共有している。		相談内容がどのようなことであっても、まずホーム一丸となって対処できるように日ごろからのチームワークの構築に努める必要があると思われる。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	他の利用者様との関係性、雰囲気を中心に十分考慮した上で、好循環となるよう、声かけや対応に留意し、ゆっくりと時間をかけている。何よりも個人のペースに合わせることを心がけている。		他の入居者様に不快感を与えることが著しい入居者様がいる場合などは、管理者が状況説明等をして共同生活の中でのマナーを考えてもらうようにする必要がありとおもわれる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護者は常に、理念を念頭に置き、それを基本として、臨機応変に柔軟に対応できるよう、努力している。		日々の業務に流されることなく、傾聴・共感の姿勢を忘れることなく、長い人生経験を持つ入居者様から学ぶことを自分のケアの中に活かし、共に過ごす時間の中で、喜怒哀楽を共感できるように努めたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とご本人の関係性を理解した上で、ご家族の面会をおおいに歓迎し、ご本人に影響するご家族の力を十分に発揮して頂き、相互で支えていくという体制をとっている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの家族関係について、ご家族や管理者からの情報をもとに理解をし、今後よりよい関係が築いていける事を目的に、声かけや対応をしている。時には仲介役となり、今職員が出来ることを考慮し、接している。		管理者・職員の言動によって家族間の問題を生じさせないように気をつけるように努めたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	環境が与えている影響の大きさを理解し、ご本人を取り巻く環境をすべて因子としてあげ、ご本人への影響を検討し、ご本人にとってプラスとなるような環境が続くように支援をしている。		ご家族とお墓参り等出来ない入居者様のお墓参りの支援を企画・実施したいと思っている。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共同生活という利点を生かし、「外出」や「旅行」を共にすることで、会話やふれあいを通して良い関係が形成できるようにサポートしている。常に職員がその時の状況や関係性を把握しておく必要性があり、必要に応じて見守りや声かけを行う。		1泊旅行の時など、仲良く入浴される。ホームでもそのようにできないかと考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	その方の退去先、施設、病院等の担当関係者と連携、協力を図り、その方の穏やかな生活を支援します。		契約終了後も訪問等出来るよう、良い人間関係を構築して行きたい。
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の話される言葉を傾聴し、思いを理解した上で、ご本人にとって必要と思われることを考慮し、主体的に、また客観的にニーズを見出し、共に検討している。		回想法などで、これまでの生活史見出し、本人の希望する暮らし方を知り、実現の支援ができるようにしたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や管理者からの情報をもとに、今に至る経過を把握、理解し、「回想療法」を活用し今後のよりよい生活に向けて活かせるよう努力する。ホーム内に2名回想療法士の資格を取得した回想療法士がいて、積極的に回想療法を実施して認知症の進行緩和につとめている。管理者のこだわりでお正月には玄関に門松が飾られる。		心療回想士の人数を増やしていきたい。近日、映画館において「3丁目の夕日」を鑑賞、その画面の迫力に感動が大きく回想体験として効果が大きかったことから、これからは映画鑑賞を増やし継続することを決定した。管理者は毎年門松を飾りたいと思っている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の関わりを記録に残し、バイタルサインの変化を見逃さず、職員同士が個人の状態を把握して関わっている。週に1度、整形外科の往診があり、週に2度、理学療法士の訪問リハビリがある。また、2週間に1度、訪問看護を導入している。正職員がほとんどであることから馴染みの顔でケアができており、個人観察が十分にできている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族、職員双方からの気付きなどを深く受け止め、その人らしさを重要視して介護計画を作成しご家族、職員で話し合い、より良いケアにつとめている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングを十分に行い、変化が生じる前に対処できるように努めているが、やむなく変化が生じた場合、必要のある関係者の協力を得て対処している。さらに新たな介護計画を立てている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、ちょっとした変化など、気づきやご本人の話された言葉等を具体的に、関わった職員が記入する事で、他の職員がよりわかりやすく情景をイメージでき、情報を共有し、職員同士の日常の話し合いの中で、より良いケアをめざしている。		介護記録の記入の必要性、重要性を認識し、記録の書き方を随時研修して、正しい情報交換ができるようにしたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者様、ご家族に起こった状況を十分把握することに努め出来るだけ解決できるよう、また満足していただけるように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進委員会の中で、ホームの入居者様の状況を理解して頂くようにつとめ、入居者様のより良いケアに関連できる機関に協力をして頂いている。		地域ケアプラザの文化講座等に進んで参加して行こうと思っている。スポーツ療法の一環として、ノルディックウォーキング、卓球が出来るよう考案、企画している。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	市内の地域ケアプラザの包括支援センターや近隣のケアマネジャーとの交流があり、その活動に参加できるよう努めている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	区役所等の支援を受けながら必要に応じて連携を取って解決している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院を持ち、定期健診を怠らず、利用者様の健康管理を行っており、また、家族の信頼するかかりつけ医の方とも連携をとって、健康を維持できるよう図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	心療内科にかかり、認知症の診断や治療を受け、支援してもらっている。		定期的な認知度の測定の実施の必要性を感じ、実施を予定している。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護サービスを利用している。また、1名の胃瘻装着利用者については、訪問医師と訪問看護を利用している。		ターミナルケアの知識を習得すべく、研修に参加予定している。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ソーシャルワーカーと密に連絡を取り、見舞・訪問の回数を増やして、早期退院に努めている。		健康管理に留意し、入院にいたらないようにするようにしたい。また、入院となった場合にも、早期退院に向けて考慮するように努めたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、週末期に近い方はないが、週末期に対する研修やカンファレンスに努め、ターミナルケアの重要性を認識するようにしている。また、看取りの際の契約書をご家族と交わし理解を得ている。		終末期のケアの研修に職員全員で取り組んで知識・技術を身につけるように努めたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	訪問看護・提携病院との間で、連携を取り、ホームで可能なかぎりの支援をするように決定している。現在、重度のカテーテル、胃瘻装着の入居者様には、職員で可能な支援の為に必要な知識を習得、研修して穏やかに過ごして頂いている。		ホーム専属の看護職員の必要性を考えており検討中である。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	開設以来、移動は1件もないが、そのような必要性が生じた場合、その方に合った、尊厳のある対応が出来るように今から考え、準備をしている。		出来る限り、住み慣れてきているホームでの生活の継続が出来るように支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の気持ちを尊重し、自分らしく生活を送って頂けるよう支援している。個人情報の取り扱いには十分留意している。自室に鍵を掛けられる方もあるが止めないようにしている。	自室に鍵を掛けられる方もあるが、見守りの方法を考慮する必要があると検討している。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定を尊重し、常にご本人の意思に沿った対応を心がけている。無理強いをせず、ご本人のペースで生活出来るよう支援している。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特別な行事を除き、それぞれの入居者様が自由に過ごせるように支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご希望のある方は、好みの床屋へ行くことができるよう支援している。外出・旅行を楽しみにして、おしゃれをされる。訪問美容師に来てもらっている。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近所の畑から届く旬の食材を手にし、季節のお料理を作ることを心がけ、そのほとんどが家庭料理である。冬がくれば鍋料理をし、季節を感じながら楽しい食事をとっている。配膳、片付け、食器拭き、テーブル拭きなど、自主的に参加されている。一人一人のお誕生日にその方の希望されたお料理を作っている。お正月は3段重のお節料理を作っている。	お節料理を作っていると、お手伝いして下さる女性入居者様の、その楽しそうな表情に接し、毎年継続していこうと思っている。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	喫煙者の付添いを行う。、飲み物は好みを伺って提供している。好みのおやつがある場合は提供している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	カンファレンスにて検討し、随時状況に合わせて対応を心がけている。		今後、状況が許す限り、カンファレンスの回数を多くしたいと思っている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	スマイル温泉実施。毎日自由に入浴できるほか、温泉入浴剤や、暖簾、花を飾るなど、雰囲気作りにも配慮している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご本人の意思を尊重し、自由に休息がとれるよう支援している。		安全への見守りは勿論であるが、過剰なおせっかいはしないようにすることに努める。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味や好みに応じた楽しみが提供出来るよう、柔軟な対応を心がけている。花壇づくり、ホーム内の花を活けたりとホームの美化に協力して下さっている。散歩で摘んでこられる草花がホーム内にやさしさをあたえてくれている。		まだまだ出来る事を見出すことにつとめ、生きがいのある生活となるようにしたいとおもっている。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者は各自所有されている、希望時、同行し買い物の介助をしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日ご希望により、近所への散歩が習慣となっている。そのほか外食や買い物、遠方の公園や動物園などを訪れている。		いろいろな訪問場所を見つけて、新しい発見に対する感動を味わって頂くように支援したい。地域の名所などを紹介し、興味を持って散策できるように支援したい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個人の思い入れのある場所など、ご家族と協力し、希望をかなえられるよう支援している。遠方へ出かけることを忘れられないように1年に2回(秋・冬)の旅行を実施している。		回を重ねるごとに、旅行を楽しみにされるようになっていく。来年春は箱根温泉に決定しており、これまで以上に心待ちにしておられる。いつまでも継続できるように努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時ご家族やご友人に、電話をしたり、手紙を送れるよう支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	時間に制限無く、いつでも訪問頂ける。		訪問者の事情を考慮して、今、この時出来ることの一環として自由に訪問して頂くように支援を継続していきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスの都度問題としてとりあげ、身体拘束のないケアの在り方を研修している。		これまでと同じく、入居者様に尊厳をもち、虐待や拘束ない支援を継続していきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にはセンサーを設置し鍵を掛けずに自由に入出入り出来る様にしている。1Fのバルコニーのウッドデッキも鍵を掛けておらず、訪問者の来訪時にも手をあげて受け応えるておられる等開放感を満喫されている。お見送りもされている。		出来ればウッドデッキのスペースを広くして行きたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホームの介護方針として自発的に行動される事を支援しておりイベント以外は自由に生活している事から必要以上に居室に入ることもせず、プライバシーが守られている事を認識して頂ける様にしている。その為にも見守りを怠る事なく重要視して安全を期している。		いつまでも、自室とリビングの違いを認識して頂きたく為に現在のケアを継続して行きたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険なものでも、スタッフの見守りで使用できるものは、希望時に使用できるよう支援している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	服薬管理表を作成、実施し誤薬事故を防ぐ。行方不明を防ぐため、常時見守りを心がけ、玄関にセンサーを設置している。入居者様の喫煙時は必ず見守る。火器管理徹底。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命処置、防災マニュアル等を作成している。これを基準にしてカンファレンス等で研修している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進委員会を開催し、近隣の住民やサービス事業者、自治体と交流を行い、理解を求めている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	必要時、ご家族との相談の上、対応を検討している。		ご家族の来訪回数が増える様働きかけをする。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の食事・水分摂取量、排泄チェックなどから、一人ひとりの体調の把握を行っている。訪問看護、定期通院など、医療機関との連携を行い、健康管理に努めている。		看護師のパートの雇用を検討している。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳の確認、薬の変更時の申し送り等で、スタッフ全員が把握し、的確に服薬が出来るよう支援している。		薬は、1か所の調剤薬局に依頼しており、配達してもらい事故管理に努めている。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	臨機応変に食事のメニューを決定し、その方のその状況に応じた内容を決める。毎日の散歩や、食事・水分摂取量の管理、排泄チェックを行い、便秘の把握、解消に努めている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	なるべくご本人が自力で歯磨きを行えるよう、声かけサポートを実施している。介助が必要な方の口腔ケア、義歯を使用されている方の夜間の消毒、管理等、必要に応じ支援している。必要時歯科往診受診している。		口腔ケアが難しい方は、歯科往診を依頼している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調、それぞれの食事量に合わせて、栄養バランスを考慮し、献立や量を設定している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防接種を受ける。感染予防の研修に参加。マニュアル作成や演習を行い、感染予防に努めている。また、散歩など外気浴につとめている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は常に新鮮なものを使用するため、こまめに買い物に行き、鮮度の良いものを使用する。台所の衛生管理は殺菌消毒を都度行い、徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	焼き芋大会やバーベキュー大会など、野外で行う行事を企画し、気軽に参加頂けるよう工夫している。建物の周囲に植木や花を育てている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除、消臭・殺菌消毒を行い、出来る限り不快の無い環境整備をこころがけている。散歩道で入居者が摘んでこられた季節の草花を、花瓶に活ける。下駄箱や物置棚にはパーテーションなどで目隠しをしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室をはじめ、二人掛けのソファなど、邪魔されずにひと時を過ごせる場所を設けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や飾りは、ご本人やご家族が持ち込まれたそれぞれの思い入れのある馴染みの品で、使い慣れたものを使用されている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計・湿度計を使用し、快適な温度・湿度を保てるよう調整している。エアコン・加湿器・換気扇など。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室などに手すりを設け、ご本人の能力を活かした生活が送れるよう支援している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱されたり、失敗に戸惑われている場合、さりげなく誘導し、尊厳の保持に努めている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキにベンチを設置し、外からでも室内からでも出入りできるようになっているため、いろいろな方と交流できる。夏には、ミニトマトを栽培しウッドデッキから挽ぎ取り食べれる様になっている。		毎年ミニトマトの栽培は継続して行く。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム スマイル青葉
(ユニット名)	2F
所在地 (県・市町村名)	神奈川県横浜市恩田町1152
記入者名 (管理者)	鈴木 和恵
記入日	平成 19 年 11 月 30 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者様の尊厳を第一に考え、礼儀正しい姿勢で接すること、今を大切に...今出来ることに全力を...今味わえる喜びを胸一杯に...そして思い出づくりを...充実した生活を送っていただけるよう支援します。」という理念を掲げ、尊厳と接遇と自立支援を最重要視し、スキルアップにつとめながらケアにあたっている。	入居者様の、尊厳を守ることに努め、自立支援するようにいつの時も心がけていきたい。
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念の共有を考えながら、問題が見出されたその都度、1F・2Fそれぞれミーティング、または合同カンファレンスを実施し、理念の実現に向けて努力している。	時間の調整に努め、カンファレンスの回数を増やしたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族会が設置されているので、家族会の中で、当ホームでの理念を説明し、賛同を得ている。また、地域においては平成19年10月28日運営推進会議実施し、理念の説明をし、賛同を得ている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	近隣の畑より毎朝、野菜を購入している。隣の畑のさつま芋のひと棟を買い、さつま芋掘りを実施している。散歩の都度、畑にいる近隣の方と言葉を交わしたり、柿やお花を頂いたりしている。地元の田奈農協から地元のお米を購入している食材も地域のお店で調達している。地域のお祭りなどにも参加している。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	当ホームは恩田町にあるが、恩田町は広く、当ホームの一番身近な場所にある堀之内自治会の会員となり、地域活動に参加しており、恩田町自治会とも連携を取りながら、協力してもらっている。	恩田町の自治会との連携を考慮する必要がある。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	平成18年度 横浜市認知症高齢者グループホーム 認知症予防・介護事業の一環として、地域の方を対象とした知症の現場でのケア「もっと理解しよう認知症...そして地域で支えたい認知症の方がた」をテーマとして、スマイル青葉管理者鈴木和恵が青葉区役所にて講演を行った。		地域活動の一環として、講演会などの開催を企画し、実施していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回、第一回目の外部評価に向けて取り組んでいる。		今後も年に1回継続して行きたい。外部評価により反省点を確認でき、これからのケアのしつもの向上の指針となるようにしたい。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年10月28日運営推進会議を実施し、委員の方、オブザーバーの方々へ、現状を報告し、意見交換を行う。		委員会への参加者を増やし、より多くの意見交換ができ地域活動が活発に出来、サービスの向上に活かしたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者が認知症介護実践研修指導者であることから、活発に行政との話し合いをしている。また、生活保護の利用者が6名いることから、生活保護課の職員と密な連携をもって、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者をはじめ、職員で、後見人制度等の研修に参加し、知識を深めるよう努力している。		今後も研修等で知識を深めていきたい。それにより必要が生じた場合に適切に対応できるように備えておきたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	平成19年7月7日(土)に行われた、第4回「日本高齢者虐待防止学会横浜大会」に参加をし、高齢者虐待の防止、発見後の対応について地域包括センター・行政・施設等、それぞれの立場から事例をもとにした検討を聴き、当ホームでもカンファレンス等で虐待防止について認識を深めている。現在当ホームでは虐待はみられていない。		尊厳・接遇をもって入居者様に接することにより虐待はさげられるとおもっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の見直しが必要になった場合、家族会において、説明・検討をし、より良い形で解決するよう心がけている。解約に関しては現在まで、解約者は1名であり、その1名も病院に入院という形で解約にいたっている。どのような時も十分な話に応じる準備ができています。		
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	当ホームにおいて、職員や管理者が十分に利用者様の話を聴くようにしており、その内容をミーティング・カンファレンスにおいて検討し、利用者様の満足に近づけるようなケアができるよう心がけている。		
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ケアプランの変更の際はもちろんの事、個人的な事はご家族に直接、来訪された都度、話し合いをしている。また、月に1回発行する「スマイルだより」において現状等報告している。		
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会において、意見・苦情等を話せる場を設けている。個々の問題については家族と管理者・職員がいつでも話し合うことができるようにして、解決に向けている。		ご家族様とは、良い関係が保たれていると思われ苦情も聞こえてこないが、更に苦情が申し出られるような雰囲気作りにつとめたい。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスや個別面談を実施し、意見を取り入れている。		問題があるといつでも相談できる運営者・管理者であるように努めたい。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	管理者が勤務表作成を担当し、予定や状況に合わせて職員確保や変更など行っている。		
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者が個別面談を実施し、個別に話し合いをした上で、状況判断をし考慮した上で移動などを行っている。個々の職員の得意とする分野での活躍を認めるようにし、自信を持って活躍できるようにして、職員が長期間勤務できるようにしている。このことにより、なじみの関係が継続できている。		無理のないシフトで健康管理に努めて、変更の少ないように努めてもらい、やむを得ない場合は十分な配慮で解決している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修への積極的な参加をサポートし、全体で一つ一つの内容を理解・共有できるようにしている。また、研修で学んだことを活かしていくよう、視野を広げていくよう、指導されている。		自主的に研修参加が出来るように、自己研鑽の必要性を認識してもらえるように育成していきたい。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者の人脈・交流の中で、他グループホームとの交換研修を独自で実施している。今年も、他グループホームとの個人的な研修を受け入れた。また、グループホーム連絡会の交換研修も終了した。		管理者がケアマネジャーとして兼務しており、その関係で交流範囲が広い。ホームのサービス向上のためにもさらに職員共々地域の同業者との交流を持つように努めたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	就労時間・休日等、運営の中で、無理がないよう、職務に従事してもらい、なお個々にストレス・問題がある場合は話し合いのうえ解決するようにしている。また、ストレスマネジメントの研修に参加している。		運営者・管理者は、職員とのコミュニケーションを大切にしていきたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	施設内研修等で、職員のスキルアップの実績を認めることができるよう、務めており、また、施設外研修に参加してもらってケアの質の向上を目指してもらうよう働きかけている。		認知症に関する知識と介護技術のスキルアップのために認知症介護実践者研修への参加を予定している。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者が、ご本人やご家族、その他から情報を収集し、ご本人が置かれている状況や現在抱えている問題・悩み等をくみ取った上で、混乱や不安を招かぬ様、努力している。実際に日々関わる職員がご本人の話される言葉を傾聴し、ご本人の求めている事を理解した上でニーズを見出し、管理者に伝えている。		2Fは、個人行動を好まれる方が多いので、これをわがままとだけ受け止めるだけではなく、その人のための支援を見出すことができるようにつとめたい。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	管理者が、ご家族と連絡を密にとり、その時、抱えている問題や悩み理解し把握している。課題をご家族と共有し解決に向けてよりよい方法を考えている。また、入居前のケアマネジャーの意見を参考にすることもある。		関係ケアマネジャーとの連携をもっておくことがたいせつであるとおもう。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた際は管理者が状況判断をし、ご本人にとって必要である支援を考慮した上で、職員と対応を共有している。		相談内容がどのようなことであっても、まずホーム一丸となって対処できるように日ごろからのチームワークの構築に努める必要があると思われる。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	他の利用者様との関係性、雰囲気を中心に十分考慮した上で、好循環となるよう、声かけや対応に留意し、ゆっくりと時間をかけている。何よりも個人のペースに合わせることを心がけている。		他の入居者様に不快感を与えることが著しい入居者様がいる場合などは、管理者が状況説明等をして共同生活の中でのマナーを考えてもらうようにする必要がありとおもわれる。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	介護者は常に、理念を念頭に置き、それを基本として、臨機応変に柔軟に対応できるよう、努力している。		日々の業務に流されることなく、傾聴・共感の姿勢を忘れることなく、長い人生経験を持つ入居者様から学ぶことを自分のケアの中に活かし、共に過ごす時間の中で、喜怒哀楽を共感できるように努めたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とご本人の関係性を理解した上で、ご家族の面会をおおいに歓迎し、ご本人に影響するご家族の力を十分に発揮して頂き、相互で支えていくという体制をとっている。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの家族関係について、ご家族や管理者からの情報をもとに理解をし、今後よりよい関係が築いていける事を目的に、声かけや対応をしている。時には仲介役となり、今職員が出来ることを考慮し、接している。		管理者・職員の言動によって家族間の問題を生じさせないように気をつけるように努めたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	環境が与えている影響の大きさを理解し、ご本人を取り巻く環境をすべて因子としてあげ、ご本人への影響を検討し、ご本人にとってプラスとなるような環境が続くように支援をしている。		ご家族とお墓参り等出来ない入居者様のお墓参りの支援を企画・実施したいと思っている。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	共同生活という利点を生かし、「外出」や「旅行」を共にすることで、会話やふれあいを通して良い関係が形成できるようにサポートしている。常に職員がその時の状況や関係性を把握しておく必要性があり、必要に応じて見守りや声かけを行う。		1泊旅行の時など、仲良く入浴される。ホームでもそのようにできないかと考えている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	その方の退去先、施設、病院等の担当関係者と連携、協力を図り、その方の穏やかな生活を支援します。		契約終了後も訪問等出来るよう、良い人間関係を構築して行きたい。
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1.一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の話される言葉を傾聴し、思いを理解した上で、ご本人にとって必要と思われることを考慮し、主体的に、また客観的にニーズを見出し、共に検討している。		回想法などで、これまでの生活史見出し、本人の希望する暮らし方を知り、実現の支援ができるようにしたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や管理者からの情報をもとに、今に至る経過を把握、理解し、「回想療法」を活用し今後のよりよい生活に向けて活かせるよう努力する。ホーム内に2名回想療法士の資格を取得した回想療法士がいて、積極的に回想療法を実施して認知症の進行緩和につとめている。管理者のこだわりでお正月には玄関に門松が飾られる。		心療回想士の人数を増やしていきたい。近日、映画館において「3丁目の夕日」を鑑賞、その画面の迫力に感動が大きく回想体験として効果が大きかったことから、これからは映画鑑賞を増やし継続することを決定した。管理者は毎年門松を飾りたいと思っている。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の関わりを記録に残し、バイタルサインの変化を見逃さず、職員同士が個人の状態を把握して関わっている。週に1度、整形外科の往診があり、週に2度、理学療法士の訪問リハビリがある。また、2週間に1度、訪問看護を導入している。正職員がほとんどであることから馴染みの顔でケアができており、個人観察が十分にできている。		
2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご家族、職員双方からの気付きなどを深く受け止め、その人らしさを重要視して介護計画を作成しご家族、職員で話し合い、より良いケアにつとめている。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングを十分に行い、変化が生じる前に対処できるように努めているが、やむなく変化が生じた場合、必要のある関係者の協力を得て対処している。さらに新たな介護計画を立てている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や、ちょっとした変化など、気づきやご本人の話された言葉等を具体的に、関わった職員が記入する事で、他の職員がよりわかりやすく情景をイメージでき、情報を共有し、職員同士の日常の話し合いの中で、より良いケアをめざしている。		介護記録の記入の必要性、重要性を認識し、記録の書き方を随時研修して、正しい情報交換ができるようにしたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者様、ご家族に起こった状況を十分把握することに努め出来るだけ解決できるよう、また満足していただけるように支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	運営推進委員会の中で、ホームの入居者様の状況を理解して頂くようにつとめ、入居者様のより良いケアに関連できる機関に協力をして頂いている。		地域ケアプラザの文化講座等に進んで参加して行こうと思っている。スポーツ療法の一環として、ノルディックウォーキング、卓球が出来るよう考案、企画している。
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	市内の地域ケアプラザの包括支援センターや近隣のケアマネジャーとの交流があり、その活動に参加できるよう努めている。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	区役所等の支援を受けながら必要に応じて連携を取って解決している。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携病院を持ち、定期健診を怠らず、利用者様の健康管理を行っており、また、家族の信頼するかかりつけ医の方とも連携をとって、健康を維持できるよう図っている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	心療内科にかかり、認知症の診断や治療を受け、支援してもらっている。		定期的な認知度の測定の実施の必要性を感じ、実施を予定している。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護サービスを利用している。また、1名の胃瘻装着利用者については、訪問医師と訪問看護を利用している。		ターミナルケアの知識を習得すべく、研修に参加予定している。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ソーシャルワーカーと密に連絡を取り、見舞・訪問の回数を増やして、早期退院に努めている。		健康管理に留意し、入院にいたらないようにするようにしたい。また、入院となった場合にも、早期退院に向けて考慮するように努めたい。
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在、週末期に近い方はないが、週末期に対する研修やカンファレンスに努め、ターミナルケアの重要性を認識するようにしている。また、看取りの際の契約書をご家族と交わし理解を得ている。		終末期のケアの研修に職員全員で取り組んで知識・技術を身につけるように努めたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	訪問看護・提携病院との間で、連携を取り、ホームで可能なかぎりの支援をするように決定している。現在、重度のカテーテル、胃瘻装着の入居者様には、職員で可能な支援の為に必要な知識を習得、研修して穏やかに過ごして頂いている。		ホーム専属の看護職員の必要性を考えており検討中である。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	開設以来、移動は1件もないが、そのような必要性が生じた場合、その方に合った、尊厳のある対応が出来るように今から考え、準備をしている。		出来る限り、住み慣れてきているホームでの生活の継続が出来るように支援していきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の気持ちを尊重し、自分らしく生活を送って頂けるよう支援している。個人情報の取り扱いには十分留意している。自室に鍵を掛けられる方もあるが止めないようにしている。	自室に鍵を掛けられる方もあるが、見守りの方法を考慮する必要があると検討している。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	自己決定を尊重し、常にご本人の意思に沿った対応を心がけている。無理強いをせず、ご本人のペースで生活出来るよう支援している。	
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	特別な行事を除き、それぞれの入居者様が自由に過ごせるように支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご希望のある方は、好みの床屋へ行くことができるよう支援している。外出・旅行を楽しみにして、おしゃれをされる。訪問美容師に来てもらっている。	
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	近所の畑から届く旬の食材を手にし、季節のお料理を作ることを心がけ、そのほとんどが家庭料理である。冬がくれば鍋料理をし、季節を感じながら楽しい食事をとっている。配膳、片付け、食器拭き、テーブル拭きなど、自主的に参加されている。一人一人のお誕生日にその方の希望されたお料理を作っている。お正月は3段重のお節料理を作っている。	お節料理を作っていると、お手伝いして下さる女性入居者様の、その楽しそうな表情に接し、毎年継続していこうと思っている。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	喫煙者の付添いを行う。、飲み物は好みを伺って提供している。好みのおやつがある場合は提供している。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	カンファレンスにて検討し、随時状況に合わせて対応を心がけている。		今後、状況が許す限り、カンファレンスの回数を多くしたいと思っている。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	スマイル温泉実施。毎日自由に入浴できるほか、温泉入浴剤や、暖簾、花を飾るなど、雰囲気作りにも配慮している。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	ご本人の意思を尊重し、自由に休息がとれるよう支援している。		安全への見守りは勿論であるが、過剰なおせっかいはしないようにすることに努める。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	趣味や好みに応じた楽しみが提供出来るよう、柔軟な対応を心がけている。花壇づくり、ホーム内の花を活けたりとホームの美化に協力して下さっている。散歩で摘んでこられる草花がホーム内にやさしさをあたえてくれている。		まだまだ出来る事を見出すことにつとめ、生きがいのある生活となるようにしたいとおもっている。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望者は各自所有されている、希望時、同行し買い物の介助をしている。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日ご希望により、近所への散歩が習慣となっている。そのほか外食や買い物、遠方の公園や動物園などを訪れている。		いろいろな訪問場所を見つけて、新しい発見に対する感動を味わって頂くように支援したい。地域の名所などを紹介し、興味を持って散策できるように支援したい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個人の思い入れのある場所など、ご家族と協力し、希望をかなえられるよう支援している。遠方へ出かけることを忘れられないように1年に2回(秋・冬)の旅行を実施している。		回を重ねるごとに、旅行を楽しみにされるようになっていく。来年春は箱根温泉に決定しており、これまで以上に心待ちにしておられる。いつまでも継続できるように努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時ご家族やご友人に、電話をしたり、手紙を送れるよう支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	時間に制限無く、いつでも訪問頂ける。		訪問者の事情を考慮して、今、この時出来ることの一環として自由に訪問して頂くように支援を継続していきたい。
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスの都度問題としてとりあげ、身体拘束のないケアの在り方を研修している。		これまでと同じく、入居者様に尊厳をもち、虐待や拘束ない支援を継続していきたい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関にはセンサーを設置し鍵を掛けずに自由に入出入り出来る様にしている。1Fのバルコニーのウッドデッキも鍵を掛けておらず、訪問者の来訪時にも手をあげて受け応えるておられる等開放感を満喫されている。お見送りもされている。		出来ればウッドデッキのスペースを広くして行きたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ホームの介護方針として自発的に行動される事を支援しておりイベント以外は自由に生活している事から必要以上に居室に入ることもせず、プライバシーが守られている事を認識して頂ける様にしている。その為にも見守りを怠る事なく重要視して安全を期している。		いつまでも、自室とリビングの違いを認識して頂きたく為に現在のケアを継続して行きたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険なもので、スタッフの見守りで使用できるものは、希望時に使用できるよう支援している。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	服薬管理表を作成、実施し誤薬事故を防ぐ。行方不明を防ぐため、常時見守りを心がけ、玄関にセンサーを設置している。入居者様の喫煙時は必ず見守る。火器管理徹底。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命処置、防災マニュアル等を作成している。これを基準にしてカンファレンス等で研修している。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進委員会を開催し、近隣の住民やサービス事業者、自治体と交流を行い、理解を求めている。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	必要時、ご家族との相談の上、対応を検討している。		ご家族の来訪回数が増える様働きかけをする。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日の食事・水分摂取量、排泄チェックなどから、一人ひとりの体調の把握を行っている。訪問看護、定期通院など、医療機関との連携を行い、健康管理に努めている。		看護師のパートの雇用を検討している。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳の確認、薬の変更時の申し送り等で、スタッフ全員が把握し、的確に服薬が出来るよう支援している。		薬は、1か所の調剤薬局に依頼しており、配達してもらい事故管理に努めている。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	臨機応変に食事のメニューを決定し、その方のその状況に応じた内容を決める。毎日の散歩や、食事・水分摂取量の管理、排泄チェックを行い、便秘の把握、解消に努めている。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	なるべくご本人が自力で歯磨きを行えるよう、声かけサポートを実施している。介助が必要な方の口腔ケア、義歯を使用されている方の夜間の消毒、管理等、必要に応じ支援している。必要時歯科往診受診している。		口腔ケアが難しい方は、歯科往診を依頼している。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調、それぞれの食事量に合わせて、栄養バランスを考慮し、献立や量を設定している。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	予防接種を受ける。感染予防の研修に参加。マニュアル作成や演習を行い、感染予防に努めている。また、散歩など外気浴につとめている。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は常に新鮮なものを使用するため、こまめに買い物に行き、鮮度の良いものを使用する。台所の衛生管理は殺菌消毒を都度行い、徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	焼き芋大会やバーベキュー大会など、野外で行う行事を企画し、気軽に参加頂けるよう工夫している。建物の周囲に植木や花を育てている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の掃除、消臭・殺菌消毒を行い、出来る限り不快の無い環境整備をこころがけている。散歩道で入居者が摘んでこられた季節の草花を、花瓶に活ける。下駄箱や物置棚にはパーテーションなどで目隠しをしている。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室をはじめ、二人掛けのソファなど、邪魔されずにひと時を過ごせる場所を設けている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や飾りは、ご本人やご家族が持ち込まれたそれぞれの思い入れのある馴染みの品で、使い慣れたものを使用されている。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	温度計・湿度計を使用し、快適な温度・湿度を保てるよう調整している。エアコン・加湿器・換気扇など。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、浴室などに手すりを設け、ご本人の能力を活かした生活が送れるよう支援している。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	混乱されたり、失敗に戸惑われている場合、さりげなく誘導し、尊厳の保持に努めている。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキにベンチを設置し、外からでも室内からでも出入りできるようになっているため、いろいろな方と交流できる。夏には、ミニトマトを栽培しウッドデッキから挽ぎ取り食べれる様になっている。		毎年ミニトマトの栽培は継続して行く。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)